

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階ダイニングホールの目に付き易い所にケア理念を掲示している。全職員は理念をふまえたケアに心がけている。	理念を1階ダイニングホールと2階ホールの目に付き易い所に掲示し、共有と実践に繋げている。また、毎月のスタッフ会議の中で理念に沿った支援について話し合い、利用者に寄り添うケアに取り組んでいる。家族には利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地区の区長さん、民生委員さん、小中学校の校長先生にも参加していただき学校行事の参加につながっている。	開設以来、区費を納めて地域の中で親しまれ、開かれた施設として活動している。新型コロナの5類移行後は、運営推進会議を活かした取り組みを積極的に進めている。地域交流も積極的に展開しており、特に小・中学校との相互交流を積極的に行っている。小学校の音楽会に招待されたり、子供たちが定期的にホームに来訪して利用者と交流している。秋には中学の吹奏楽部の見学にも出掛ける予定である。また、地域の秋祭りも再開されて、「神楽」がホームに来訪し利用者も楽しいひと時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に数回、小学4年生と交流を行い、認知症サポーターを増やしていくお手伝いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、活動報告や入所者状況をお伝えしている。また、テーマごとに沿って話し合いや意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	コロナ蔓延中は書面での開催が続いていたが、新型コロナの5類への移行後は、区長、民生委員、市高齢者支援課職員、利用者代表、家族代表、ホーム関係者が出席して、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。利用者状況、活動内容報告、職員関係、意見交換等を基本とし、運営推進会議において決めた「小中学校等地域との交流」、「避難訓練、災害対策」「認知症についての学習」「防犯対策」「クリスマス会への参加」等のテーマに沿って必要に応じて、小中学校の校長先生、消防署員、警察官等に出席いただいて、意見、助言をもらって地域との交流、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成員として意見交換や助言をいただいている。	市の高齢者支援課とは運営推進会議への出席と共に「介護報酬の変更」等の制度変更について連携を取っている。2名の市の介護相談員が2ヶ月に1回来訪している。また、月に1回開催される市のケアマネジャー連絡会及び介護支援専門員連絡会に管理者が出席している。介護認定更新調査は、調査員がホームに来訪し、社長、管理者が対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議の時には身体拘束について話し合いを行っている。また、マニュアルの確認も行っている。	拘束のないケアを基本に取り組んでいる。玄関は、日中開錠されている。転倒危惧のある利用者が若干名おり、家族と相談の上、センサーマットを使用している。毎月のスタッフ会議で身体拘束に関する話し合いを行い、知識を高めて、日々の支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員の悩みや相談を聞いたり、負担にならないよう配慮している。また、年2回虐待についての研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援連絡会に定期的に出席し、成年後見制度について学んでいる。ホームでは制度活用されている事例はない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明をしている。不安についても伺い、改定時は、文書にて通知している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、地域の方々、ご家族の意見を伺い、運営に反映している。	家族の面会は新型コロナの5類移行後は、居室も含めて、施設内で自由に行っている。ホームでの生活の様子は年4回発行の写真入り「こだま便り」に職員のコメントを添えて家族に送付している。合わせて電話できめ細かく連携を取っている。誕生日には本人の好きな料理を提供し、エレクトーン演奏に合わせてバースデイソングを歌って祝っている。また、春に家族の親睦会が再開され、多くの家族が来訪した。12月の「クリスマス会」にも家族をお呼びする予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議で行事の内容について話し合ったり、職務職責をもって仕事に取り組む、又、提案も聞いている。	月1回のスタッフ会議において連絡事項、各種内部研修、活動予定の確認、意見交換等を行っている。職員は毎年1月に前年度の自己評価及び今年度の目標設定を行っている。管理者は、シートに職員個々の将来を見据えたコメントを書き添えてモチベーションアップに繋げている。なお、職員は業務として「研修」「運営推進会議」「施設新聞企画」「備品管理」「内服薬管理」「調理場」の6項目の何れかを担当することにより、責任を持って日々の仕事に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務条件を理解し働きやすい職場づくりを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者が中心となり、年間研修計画の指導的な立場となり、研修の機会を設け、スタッフ全員が学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と協定を結び、助け合いネットワークが築けている。又、施設部会での研修を通して意見交換を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子を観察し、その人を知り、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら安心して生活が送れるように信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望をお聞きし話し合い、協力しながらよい関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い本人の状況、ニーズを把握しその時に必要とされる支援を見極め、その人に合ったサービスの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事・お茶の時間を共有し掃除や畑仕事など共に支えあって生活できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を保っていけるよう、親睦会をし普段の生活の様子を家族に報告。何かあったときは相談し共に本人を支えていく関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ5類移行後も一定の制限が残る中、なじみの人との関係が途切れないように、気軽に面会に来ていただけるように支援している。	親戚の面会もあり、玄関で歓談している。利用者の欲しい物は、家族に連絡して届けてもらっている。理美容は、社長が個々の様子を見ながらカット、髪染めを行っている。また、年末には手作り年賀状を家族に出して喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が孤立しないように、全員参加でのレクリエーションを行ったり、関わり合えるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後はほとんど関わりはないが、ホームの畑で 採れたものを継続して差し上げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や言動、本人の思いや希望の意向をくみ取り把握できるように努めている。	全利用者が意思表示ができ、日中はホールで自由な時間を過ごしている。入浴時やレクリエーションを行っている時などに気付いた言動等は個人記録に纏めて情報を共有している。個人記録は、出勤時に確認し合って、利用者の意向に沿った支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ケアマネからの情報、ご本人と話をするなどして状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、業務日誌にその日の状態、変化を記録し情報を共有して統一のケアができるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、状態の変化に応じて見直しをしている。	職員は2名の利用者を担当し、居室管理、家族との連絡等を行っている。また、薬担当は薬の残量を確認するとともに家族と連絡を取り合って補充している。スタッフ会議で意見を出し合ってモニタリングを行い、家族の希望を面会時や電話で伺って管理者がプラン作成している。入所時は3ヶ月の暫定プランを作成し、様子を見て本プラン作成に繋げている。利用者の状態に変化がある場合には適宜見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違ったことは情報共有し、随時対応、話し合いをし、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、状況は変わるので柔軟に取り組むことができるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校との交流を大切にしており、一緒に合唱したり、行事に参加することで心身を豊かにすることができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を取り、服薬の増減・体調の変化を伝え、苦痛のない日常生活ができるように支援している。	全利用者が入所前からのかかりつけ医を家族の送迎で受診している。状態に変化が見られる場合には管理者が同行して主治医に細かく説明をしている。また、看護師の社長が日々の健康管理に当たり、主治医との連携も取っている。合わせて訪問看護師が毎週水曜日に来訪しており、万全な医療体制を整えている。歯科は、必要に応じて職員が付き添って協力歯科医を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	認知症を抱え、自ら体調の変化、異常を訴えることができない。利用者の方にはいつもと違う点を発見し適切な医療につなげるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当看護師や主治医と情報交換し、経過についても、細やかに説明を受けスムーズに退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の早い段階でリビングウィルに意向を記入。家族の意向、主治医の意見も踏まえ終末期を迎えるようにしている。年に1～2人、お看取りをしている。	重度化、終末期に対する指針が有り、利用契約時に説明している。合わせて入所時に「私の医療に対する希望」「終末期を迎えた時の希望」を書面で確認している。終末期を迎えた時には家族、医師、ホームで話し合いの場を設けて、家族の意向を確認した上で、医師の指示を受け、改めて看取り同意書にサインをいただいて医療行為を必要としない看取り支援を行っている。1年以内に若干名の看取りを行った。エレクトーン演奏に合わせて讃美歌を歌い、心の籠ったお見送りを行った。看取り後のスタッフ会議において職員で振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	『急変時の対応について』職員研修を行った。常に変化がないか観察もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回は地域の方と一緒に避難訓練を実施している。	消防署へ届け出た上で、年2回防災訓練を行っている。8月には消防署職員、区長さん、民生委員2名、家族代表1名が参加し、火災を想定して消火器を使つての消火訓練、利用者の方は玄関まで移動しての避難経路の確認、通報訓練を実施した。また、11月には避難訓練、通報訓練、消火器の位置確認、職員の手順確認等の訓練を行う予定である。緊急連絡網の確認訓練はスマートフォンのSNSを一斉配信を定期的に行っている。当ホームが市の福祉避難所の指定場所となっており、2名の受け入れが可能となっている。「水」「米」「レトルト食品」等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの利用者様の性格、認知症の症状の違いを理解し、その人を尊重し今できることを見つけていけるように努めている。	言葉使いには特に気を配り、方言も交えながら優しく温かみのある声掛けをする様に心掛けている。また、排泄や入浴の際には他の方に見えない様に配慮している。夜勤職員は全員が男性職員なので、入室の際は外から優しく声掛けをする様に努めている。呼び方は、基本的には苗字を「さん」付けで呼んでいる。年1回の接遇研修行つてプライバシーに配慮した支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく、ご本人の意思決定に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	個々に合わせて起床時間の順番を変えたり、レクリエーションも何をやりたいか、聴いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は職員がカットしています。衣類等の選定もご家族様をお願いしている。利用者様の身だしなみにも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に野菜を育てたり、誕生日には食べたいものをお聞きし好物を提供している。又、食事後の食器拭きも手伝って下さる。	全介助の方が若干名、多数の方は自力で食事が出来る状況である。主食の食形態は常食が「緑」、おかゆが「赤」、ミキサー食が「紫」の札で色分けされている。家庭的な雰囲気を大切に、出来立ての物を温かいうちに提供している。献立は1年分の基本献立を参考にして、ホームの畑で収穫した野菜をふんだんに使って、魚や肉がダブらない様に意識しながら調理している。利用者は「食器拭き」「テーブル拭き」等を手伝っている。また、誕生日には本人の希望を聞いて好きな物を提供している。また、お盆には「ナスのおやき、天ぷら」、年越しには「年越しそば、お刺身」、正月には「おせち料理」を楽しんで、季節感を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は職員が摂取量を把握し健康に過ごせる支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人は自分で行い、最後はしっかりと磨けているかチェックしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を利用し、排泄パターンを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。身体レベルに応じ夜間にポータブルトイレを使用する方もいる。	殆どの方はリハビリパンツとパットを使用しており、若干名がポータブルトイレを夜間のみ使用している。起床時、おやつ時、食事前後、就寝前の定時の声掛けを行うとともに排泄表も参考にして個々の様子を見ながら早めにお誘いしている。排便は若干名がコントロールをしているが、「お茶」「乳製品」「コーヒー」「温かい白湯」を中心に1日1200cc以上の水分摂取に取り組みで排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多くとれる食事や、水分を多めにとる、運動をする等便秘予防に心掛けている。毎日排泄記録をチェックし排便状況を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、浴室内で楽しく会話したり、薔薇湯・菖蒲湯・入浴剤などで香りを楽しんでいる。	全利用者が介助が必要であり、若干名の方がリフト浴を使用している。全利用者が週2回、夏場は3回の入浴を楽しんでいる。入浴剤使用に合わせ「バラ湯」「菖蒲湯」「ゆず湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。コロナ禍も落ち着いて来たので、様子を見ながら湯田中温泉の「足湯」に出掛ける計画を立てている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡も2時間あり、十分な休息をとれている。又、室温や照明にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルにて情報を共有し用法・用量・効能の理解に努めている。又個別に服薬確認や薬の変更があった時には特に様子観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事等、その人のできることを役割とし、個々の楽しみや嗜好品等で気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や紫陽花見学、紅葉狩りドライブ等に外出している。又、小学校の音楽会にも招待され、児童の合唱等を楽しんでいる。	外出時は、杖使用と車いす使用がほぼ半数がある。陽気の良い時はホームの周りを散歩したり、ベランダや玄関前のベンチで外気浴を楽しんでいる。新型コロナの5類への移行後は、春には「おやき」を持って飯山の道の駅周辺までドライブを兼ねた「桜」や「菜の花」の花見に出掛け、また、6月には中野の谷蔵寺まで「紫陽花」見物にも出掛けている。また、秋には志賀高原方面にドライブを兼ねた「紅葉見物」に出掛ける計画を立てている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失したり、お金の管理ができないため、お小遣いはホームで預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の挨拶を出している。希望に応じ、ホームの電話を使用し介助が必要な時は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽の音量は不快に感じない音量にしている。空間に妨げにならないように、生花・鉢花等を置きやすさの場を作るように努力している。	玄関前にはベンチが置かれ、外気浴を楽しんでいる。また、玄関には見事なフラワーアレンジメントが飾られおり、来訪者を迎えてくれる。陽当たりの良いペランダのプランターに各種の花が植えられている。1階ダイニングルームには大型テレビとエレクトーンが置かれおり、寛ぎの場となっている。広々とした敷地内には、家庭菜園用の畑があり、年間を通して数々の野菜が栽培されており、食卓にも上がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置くなどして気の合った方で過ごせる空間づくりを行っている。外にテラスを設置し思い思いの空間で過ごせるよう、四季折々の花木の手入れに工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用品の持ち込みをしている。空調の環境管理をし、心地よい生活に努めている。	掃除が行き届いた綺麗な居室は、クローゼットと飾り棚が設置されている。持ち込み物は自由で、家族と相談の上、タンス、衣装ケース、テレビ等が持ち込まれている。家族の写真や位牌等に囲まれて自由な生活を送っている様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内に手摺り、エレベーターを設置している。トイレの場所、お風呂等一目で場所が分かるようになっている。又、床もバリアフリーで、転倒のリスクも低い。		